



新しいマンモグラフィ装置を導入しました！！

阿部 菜穂子（放射線技師）

2015年12月より、地下1階放射線部に新しいマンモグラフィ装置を導入しました。従来の装置と決定的に異なる点は、『トモシンセシス』が可能となったことです。

● トモシンセシス (tomosynthesis) とは

tomosynthesis とは、tomography (断層) と synthesis (合成・統一) の2つの意味から作られた造語で、1回の断層撮影で任意の断面画像を再構成する撮影技術です。簡単に言うと、乳房全体の1mm間隔の画像を1回の検査で作れるということです。例えば、4cmの乳房厚であれば40枚の画像が作られることとなります。

● 『トモシンセシス』を併用すると何がいいの？

通常マンモグラフィ撮影(以下2D撮影)にトモシンセシスを組み合わせることにより、ほぼ100%の病変の検出と、約30%の症例でカテゴリー分類の正確度の上昇が認められるようになります。そのため、不要な再検査を減らせたり、2D撮影だけではがんの存在を指摘できない症例数を減らすことができるようになります。

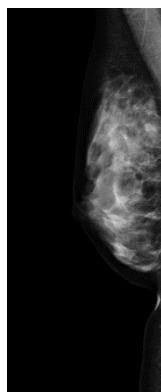
● マンモグラフィ検査は痛い？

マンモグラフィ検査は、『画質の向上・乳腺の重なりをなくし病変を見つけやすくする・画像のボケ防止・被ばく線量減少』を目的に、乳腺を挟んで乳房厚を薄く圧迫した上で撮影をします。したがって、『乳腺が張っている・硬い』『緊張で体に力が入っている』等の状況で検査を行うと痛みが伴います。しかし『トモシンセシス』は任意の断面に対して画像を再構成するので、乳房全体を薄く均一に圧迫する必要がなくなり、2D撮影ほどの痛みを伴う圧迫は必要なくなりました。実際に受けていただいた患者様に聞いても『前の装置ほど痛くない』と言う方がほとんどです。



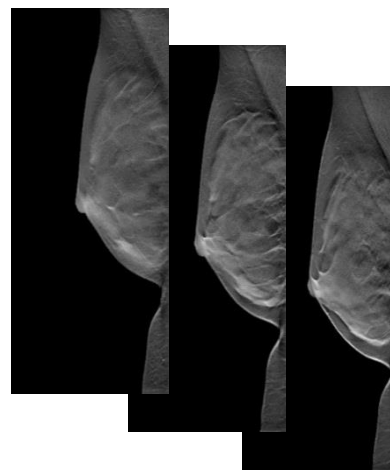
SIEMENS 社製
MAMMOMAT Inspiration
装置外観 検査室内

《2D画像》



通常のマンモグラフィ

《トモシンセシス画像》



トモシンセシスを撮影すると・・・
任意の断面において画像が作成されるため、
各断面で画像が変わり病変を見つけやすくなる



乳がんは特に40歳代から急激に罹患率が上がり、12人に1人の割合で罹患すると言われております。今まで、乳がん検査を受けたことがない方はこの機会にぜひマンモグラフィ検査を受けてみてください。